

令和 5 年 5 月 13 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19H01240

研究課題名(和文)「トランスボーダー日系文学」研究基盤構築と世界的展開 「世界文学」的普遍性の探究

研究課題名(英文) Formation of Research Platform on "Transborder Japanese Literature" in Global Scale: In Search of Its Universality as "World Literature"

研究代表者

山本 秀行 (Hideyuki, Yamamoto)

神戸大学・人文学研究科・教授

研究者番号：90230581

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,800,000円

研究成果の概要(和文)：従来、その国家・文化・言語的背景の違いゆえに、英米文学、日本文学、地域研究などの異なった学問分野において研究されてきた「トランスボーダー日系文学」を、1)「グローバル日系英語文学」、2)「トランスナショナル/トランスカルチュラル日系文学」、3)「トランスレーショナル(翻訳媒介的)日本文学」という新たな研究プラットフォームを構築し、「トランスボーダー日系文学」の日本的「固有性」を評価しつつ、さらにそれを超える「世界文学」としての「普遍性」を探求するため、国内の関連する研究者を組織化し、海外研究者たちと連携し、グローバルな研究ネットワークの基盤を構築した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

この研究プロジェクトの成果として、国際フォーラム「アジア系(アメリカ)文学を世界文学の枠組で再配置する」(2019年9月)を開催し、研究図書『アジア系トランスボーダー文学 アジア系アメリカ文学研究の新天地』(小鳥遊書房, 2021)を刊行したほか、各メンバーが国内外に積極的発信したことによって、これまでの「国民国家」を主軸とした各国文学研究の境界を越えて、よりグローバルに展開することで、「人文学の危機」と言われている昨今の日本の学界において、かつてのプレゼンスを失いつつあるように思われる文学研究(特に英米文学研究)の可能性を広げ、人文学の中心を成す文学研究の社会的意義・意味を社会に発信できた。

研究成果の概要(英文)：Although studied in different disciplines such as British/American Literature, Japanese Literature, and Area Studies, our research project "Transborder-Japanese Literature" has innovated three research platforms: 1)"Global Japanese Literature written in English"; 2)"Transnational/Transcultural Japanese Literature"; 3)"Translational Japanese Literature." In order not only to evaluate Japanese originality but also to illuminate the universality of "Transborder-Japanese Literature" as "World Literature," we have organized the relevant researchers in Japan and cooperated with the counterpart overseas for the future apparatus of a global research network.

研究分野：アメリカ文学

キーワード：日系アメリカ文学 アジア系アメリカ文学 トランスボーダー性 トランスナショナル トランスカルチュラル 翻訳 世界文学 比較文学

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

21世紀初頭の世界は、IT技術や流通の急速な発展・普及による人と物の流動性の高まりなどにより、トランスナショナル、トランスカルチュラルなど「トランスボーダー性(超域性)」をますます強め、20世紀後半までの欧米一極集中的グローバリズムでは対応できない、国民国家・文化本質主義的枠組を越えた、従来の価値観・パラダイムからの「ポスト・グローバリズム」的転換が不可避となった。こうした急激なパラダイム転換に伴いトランスボーダー化した文学の研究を進展させるためには、ガヤトリ・C・スピヴァック(Gayatri C. Spivak、コロンビア大学教授)やワイチー・ディモック(Wai Chee Dimock、イエール大学教授)などのアジア系アメリカ人研究者がいみじくも提示しているように、現代において国家基盤に基づく旧態依然とした機能不全に陥りつつあるとされる人文学の研究体系を「ポスト・グローバリズム」的「惑星思考」(planetarity)という新たなパースペクティブに基づく研究体系へと変革していくことが喫緊の課題である。

20世紀後半の多文化主義の隆盛期から現在に至るまで、アメリカ文学研究はいわゆる、白人男性中心主義的キャンノン(正典)研究一辺倒の状態から脱却し、より多様な価値観を有する性的あるいは人種的マイノリティ文学を研究対象として包含する形で進展してきた。しかしながら、特にアメリカにおけるマイノリティ文学研究は、その初期段階において、1960年代の公民権運動や1970年代のラディカル・フェミニズム運動など、其々のマイノリティ・グループの権利拡張運動と不可分であったために、その研究も其々のマイノリティ・グループの政治性に拘束され、アメリカ国内の同じマイノリティとしてのアイデンティティ・体験を共有するグループの中だけで排他的に研究され、往々にして研究の広がりや欠くこととなっていた。

アジア系アメリカ文学を例にすれば、1970年代の西海岸の大学のキャンパスで始まったアジア系アメリカ人運動(Asian American Movement)の中で、それまで埋もれていたアジア系アメリカ文学テキストの発掘とその正当な評価を行い、アメリカ文学における絶対的なキャンノン(正典)の見直しを促進した。フランク・チン(Frank Chin)やローソン・フサオ・イナダ(Lawson Fusao Inada)らのアジア系アメリカ人文学者(作家)編集のアンソロジー『アイイイ!』(Aiiieeeee!1973)の出版から始まったアジア系アメリカ文学研究は、当初はカリフォルニア大学バークリー校(UCB)、同大学ロサンゼルス校(UCLA)などのアメリカ西海岸の大学において、『アジア系アメリカ文学 その作品と社会的コンテクスト入門』(Asian American Literature: An Introduction to Writings and Their Social Context, 1982)の出版により本分野の研究基盤を確立したエレイン・H・キム(Elaine H Kim, UCB教授)などアジア系アメリカ人の学者によって行われていた。

その状況は、1980年代後半以降にアメリカ国外の日本などアジアの研究者の参入によって変化した。たとえば、アジア系アメリカ文学研究が、1989年に植木照代(神戸女子大学教授[当時])らによって設立されたアジア系アメリカ文学研究会(Asian American Literature Association、略称AALA)によって研究されるようになったことで研究自体が深化し活性化した。21世紀の初頭の現在、中国系のハ・ジン(Ha Jin)やインド系のジュンパ・ラヒリ(Jhumpa Lahiri)など、ディアスポラ作家たちによる「トランスボーダー性」という顕著な特徴を持つ新潮流のアジア系アメリカ文学は、「アジア系アメリカ文学はアメリカ生まれのアジア系アメリカ人によって、その独自の経験と感性に基づき、英語で書かれたものである」という、民族・国家意識、英語中心主義という限界のために、アメリカの学会ではその研究は十分とは言い難い。こうした「トランスボーダー性」を持つアジア系アメリカ文学の研究のため、インド生れのポスト・コロニアリズム学者ガヤトリ・チャクラヴォティー・スピバックが『ある学問の死』(Death of a Discipline, 2004)、あるいは香港生れの英文学者ワイチー・ディモックが『惑星の陰』(Shades of Planet, 2007)で提唱した「惑星思考」(planetarity)のような「ポスト・グローバリズム」的概念が必要である。従来のアメリカ中心の一極集中的研究に替わる多極的研究が求められている今日、アジアなど国外の学者たちとの連携が重要であることが、アメリカの学界においても認識され始めている。それは、UCLA アジア系アメリカ人研究センター(UCLA Asian American Studies Center)出版の本分野の主要研究誌『アメリシヤ・ジャーナル』(Amerasia Journal)が、No.34 Vol.2(2008)において、アメリカ国外におけるアジア系アメリカ文学研究を特集したことから伺い知れる。

近年、中国系、ヴェトナム系、コリア系、インド系などのアジア系アメリカ文学が一様に隆盛していき一方で、日本からの移民数の減少、日系人のインターマリッジによる人種的ハイブリッド化などの地政学的要素もあいまって、日系アメリカ文学のプレゼンスは低下しつつある。そうした危機的状況から日系アメリカ文学を救うのに、今こそ、日本の研究者による「日本中心的パースペクティブ」の導入が不可欠である。すなわち、そうした「日本中心的パースペクティブ」を導入することにより、2017年度ノーベル文学賞受賞の日本生まれのイギリス作家カズオ・イシグロ(Kazuo Ishiguro)のようにアメリカ以外で活躍する日系人作家、あるいは村上春樹のように英語翻訳出版によって英米などの英語圏だけでなくグローバルに評価されている日本作家などを研究対象として加えることを可能とし、日系アメリカ文学を「トランスボーダー日系文学」

として再編し、さらに発展させることが可能になる。同時にこれによって、欧米文学とは異なる文化・言語の日本的「固有性」ゆえに、どちらかと言えば世界的発信力が弱いとされてきた日本文学に日系文学のトランスボーダー性を包含することで、グローバルな普遍性を有する「世界文学」として再評価できる。

2. 研究の目的

また、従来、ローカル文学として過小評価されることが多かった「日本文学」「日系英語文学」を「トランスボーダー日系文学」として研究基盤を再構築し、ワイチー・ディモックが「惑星思考」や「ディープ・タイム」(deep time)などの概念により提唱した「時空を超えたテキストの連続体」、あるいはディヴィッド・ダムロッシュ (David Damrosch) が「可変的な読みや流通のモードの一つ」として再定義した、よりトランスボーダーかつインクルーシブな「世界文学」の概念に基づき、「ポスト・グローバリズム」的に研究を進めることによって、その固有性を評価するとともに普遍性を探求し、世界に冠たる「トランスボーダー日系文学」として再評価しようとする点が、本研究の学術的独自性と創造性と言える。

本研究の最終的な目的は、これまでの国や地域・言語別の「国民国家」を主軸とした各国文学研究の境界を越えて、よりグローバルかつインクルーシブに展開することで、「人文学の危機」などと言われている昨今の日本の学界において、かつてのプレゼンスを失いつつあるように思われる文学研究(特に英米文学研究)の可能性を広げ、人文学の中心を成す文学研究の社会的意義・意味を社会に発信することである。

3. 研究の方法

「トランスボーダー日系文学」を、これまで、アメリカ本土のみならず、ハワイ、カナダ、ヨーロッパやオセアニアまで世界的な規模に広がる日系人の作家が英語で書いた「グローバル日系英語文学」、ヨネ・ノグチ(Yone Noguchi)やカズオ・イシグロなど日本をルーツとして、国・言語の境界を超えて活躍する作家あるいは日本文学や日本文化を作品に取り入れて創作するカレン・テイ・ヤマシタやルース・オゼキなどの「トランスナショナル/トランスカルチュラル日系文学」、大江健三郎、村上春樹から円城塔、伊藤計劃などのSF作家まで日本語で書かれた文学が英語翻訳を通して世界に広がった「トランスレーショナル(翻訳媒介的)日本文学」、という三つのフェイズに分ける。それらの文学は、国地域・言語・歴史的背景あるいは学術的研究史の違いゆえに、英米文学、日本文学、エスニック研究、翻訳研究など、それぞれ異なった学問分野で異なった研究者によって研究されてきた。21世紀に入り、グローバル化の進展とともに、ますます、国・言語・文化等のトランスボーダー化も加速化する中、たとえば、日本生まれのイギリス作家カズオ・イシグロやアメリカの日系人作家カレン・テイ・ヤマシタ、世界的な人気を誇る日本人作家村上春樹など、様々な境界を横断・超越するようなトランスボーダーな日本人/日系人作家の活躍が顕著になってきた。そうした状況に対応し、近年の日系文学研究では、地域・言語・文化的トランスボーダー性は重要な研究テーマと目されるようになり、また、そうした研究テーマに対応可能な分野横断的研究の必要性が徐々に認識されるようになってきているものの、そうした状況に適応できるインクルーシブな研究プラットフォームの構築が喫緊の課題である。

本研究においては、このような文学を「グローバル日系英語文学」「トランスナショナル/トランスカルチュラル日本文学」「トランスレーショナル日本文学」という三つのフェイズに分けて、それぞれの研究に適合した研究グループを中心に個別あるいは共同の研究を推進する。それと同時にメンバーあるいは研究グループ間において、先述のような学術的目的意識のもとに研究成果を共有し、また海外(アメリカ、イギリス、台湾)の研究協力者にも積極的に参画してもらい、最終的には「トランスボーダー日系文学」という新たな研究プラットフォームを構築し、それをさらにグローバルな研究ネットワーク形成へと繋げていく。

先日の三つのフェイズに基づく研究グループ「グローバル日系英語文学」「トランスナショナル/トランスカルチュラル日系文学」「トランスレーショナル(翻訳媒介的)日本文学」

を三本の支柱として、「トランスボーダー日系文学」という一つの新たなプラットフォームに置き直し、国内外の各個別分野で活躍する関連の研究者たちを研究ネットワークのコアとして組織化することで、国・言語・分野を超えたスケールの大きな共同研究を行う。このように「世界文学」としての「トランスボーダー日系文学」という新たな人文学的研究プラットフォームを構築することにより、日本の研究者・学会はもとより、海外(アメリカ、イギリスに加えて、日系英米文学研究で先進的な台湾)の研究者・学会とも協力することにより、グローバルな研究ネットワークに基づく、グローバルな学術的展開を目指す。

本研究プロジェクトにおいては、三年間(2019~2021年度)の研究期間において、各グループはグループリーダーによって緊密な協力のもとに研究を行い、各年度において、2~3回のグループ研究集会・打ち合わせ(FacebookやZoom等での参加も含む)、各年度後半に、国内外の研究協力者なども招聘して、グループリーダー主導によるワークショップまたはシンポジウムを開催する。

4. 研究成果

本プロジェクトの初年度の2019年度には、研究代表者、研究分担者各自が其々の関連研究テーマについて資料収集、作家インタビュー、現地調査などの研究を行った。プロジェクトメンバーは個人または共同で、国内外の学会等において、口頭発表や論文等によって関連の研究成果を発表した。特に研究分担者巽孝之・慶應義塾大学教授の論文“Thinking After the Hemispheric: ‘The Planetary Expanse of Transnational American Writing’” (*The Routledge Companion to Transnational American Studies*, 2019. pp. 357-69) は本科研プロジェクトに関わる研究業績として特筆に値する。その他、研究代表者・分担者(山本秀行、麻生亨志、牧野理英)が中心となり、日本英文学会関東支部第17回大会シンポジウム「エスニック文学における信頼できない語り手」を開催した。本プロジェクトのキックオフイベントである“Remapping Asian (American) Literature in the Framework of World Literature”というテーマの国際学会を、アジア系アメリカ文学研究会(AALA)との共催で開催した。世界的に著名な文学者で研究協力者であるイエール大学教授 Wai Chee Dimock 氏を基調講演者、台湾・韓国からもそれぞれ研究協力者(Chih-ming Wang 氏、Ki Yoon Jang 氏)をゲスト・パネリスト/ディスカッサントとして招聘した他、本プロジェクトメンバー(巽、牧野、宇沢美子、Anton、山本)が中心となって開催した(9月発行の Proceedings および、12月発行の *AALA Journal* No.25 に収録)

本プロジェクトの2年目の2020年度には、新型コロナウイルス(COVID-19)の世界的感染拡大(パンデミック)の影響により、当初の計画を大幅に変更せざるをえなくなった。その影響で、計画していた国内外での資料収集・調査や外国の研究者を招聘しての国際研究集会の実施は見送らざるをえなかった。しかしながら、国内外の学会等での口頭発表や著書・論文公刊を積極的に行い、研究成果を発表した。メンバー個人の特筆すべき研究実績として、巽孝之氏の論文“The Laws of Literary Life Cycle: Reading Mark Twain's *Is He Dead?* as a Transnational Play” (*The Japanese Journal of American Studies* No.32, 2021. pp. 51-69)、牧野理英氏の論文“Brazil-Maruru and Ethnic Identities in the Japanese Classroom.” *Approaches to Teaching the Works of Karen Tei Yamashita*. (MLA, 2021. pp.128-138) が挙げられる。メンバー共同の研究実績として、アジア系アメリカ文学会(AALA)との共催により、AALA フォーラム 2020「アジア系アメリカ文学研究と日本文学研究の交差 「トランスボーダー日系文学」という新たな研究アプローチ」(発表者: 山本、古木、中地、松永)を機関紙 *AALA Journal* No.26(2020年12月発行)で「誌上開催」(論文発表)した。

本プロジェクトの3年目の2021年度には、新型コロナウイルス(COVID-19)の世界的感染拡大(パンデミック)の影響により当初の計画より研究の進捗が遅れたため、2022年度まで研究期間を延長した。本プロジェクトの研究成果を基にし、メンバー全員の論文を掲載した研究書『アジア系トランスボーダー文学 アジア系アメリカ文学研究の新地平』(山本ほか編著、小鳥遊書房、2021年10月)を刊行した。国内外の学会等での口頭発表や著書・論文公刊を積極的に行い、研究成果を発表した。本書の合評会を、外部委員3名を招いてオンラインで行い、本研究プロジェクトに関する課題を認識し、研究の延長期間である2022年度における展開に繋げた。2022年9月25日に本プロジェクトの主要メンバーである、麻生亨志、牧野理英、山本秀行が企画し、辛島デイヴィッド氏(早稲田大学)を基調講演者とした「アジア系アメリカ文学研究とトランスボーダー性/オリエンタリズム 村上春樹と小野姉妹を中心に」を、アジア系アメリカ文学会と共催により早稲田大学で行い、トランスボーダー性やオリエンタリズムというアジア系文学研究の方法論的展開について検討した。また、2023年2月19日に、山本が中心となり、中国文学・比較文学研究者(大東和重氏、関西学院大学教授)を基調講演者とした「世界文学としてのアジア系(アメリカ)文学」と題したシンポジウムをアジア系アメリカ文学会と中国文藝研究会との共催(オンライン)した。2023年3月11日には、牧野理英が企画し、Martin Manalansan IV 氏(ミネソタ大学、AAAS 会長)を基調講演者とした国際シンポジウムを開催した。

以上のように、本プロジェクトのメンバーの多くは、日本アメリカ文学会、日本英文学会、アメリカ学会などにおいて役職などを務め、学会や会誌などにおいて、その研究成果を発表し、存在感を示した。一方で、研究代表者山本が会長を務めるアジア系アメリカ文学会(AALA)の活動(AALA フォーラムや会誌 *AALA Journal*)を通じて共同研究を進め、専門的研究を深化させた。また、Wai Chee Dimock 氏(イエール大学、元 PMLA 編集長)、Chih-ming Wang 氏(台湾中央研究院)、Ki Yoon Jang 氏(韓国西江大学校)など、アメリカと東アジア諸国のアジア系アメリカ文学の第一線の研究者を研究協力者として国際的研究基盤の構築を行った。さらに、従来のアメリカ文学研究だけでなく、日本文学、中国文学、比較文学といった隣接分野の研究者とのコラボレーションによるインクルーシブな研究展開の可能性を見出した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計36件（うち査読付論文 20件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 1件）

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 山本秀行 | 4. 巻 26 |
| 2. 論文標題 Haruki Murakamiは（アジア系）アメリカ文学か？ トランスレーショナル（翻訳媒介）文学としての村上春樹 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 AALA Journal | 6. 最初と最後の頁 4-12 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |
| 1. 著者名 山本秀行 | 4. 巻 0 |
| 2. 論文標題 トランスボーダー化するアジア系アメリカ演劇 二世紀初頭のデイヴィッド・ヘンリー・ホワンの演劇ストラテジー | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 魅力ある英語英米文学 | 6. 最初と最後の頁 455-476 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |
| 1. 著者名 山本秀行 | 4. 巻 0 |
| 2. 論文標題 フレッド・ホーの<アフロ・エイジアン・コネクションズ>にみるポリカルチュアリズムとその新たな可能性 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 アジア系トランスボーダー文学 | 6. 最初と最後の頁 235-248 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |
| 1. 著者名 巽孝之 | 4. 巻 26 巻 4 号 |
| 2. 論文標題 日英モダニズムの果実 福沢、野口、西脇 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 学術の動向 | 6. 最初と最後の頁 48-52 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5363/tits.26.4_48 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 Tatsumi, Takayuki | 4. 巻 32 |
| 2. 論文標題 The Laws of Literary Life Cycle: Reading Mark Twain's 'Is He Dead?' as a Transnational Play | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 The Japanese Journal of American Studies | 6. 最初と最後の頁 51-69 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 巽孝之 | 4. 巻 0 |
| 2. 論文標題 SFとしてのアジアディック、ロビンソン、チャンへ至る歴史改編想像力 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 アジア系トランスボーダー文学 | 6. 最初と最後の頁 103-122 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 麻生享志 | 4. 巻 0 |
| 2. 論文標題 ヴェトナム系アメリカ難民の文学 創造と再生 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 アジア系トランスボーダー文学 | 6. 最初と最後の頁 19-32 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|--------------------|
| 1. 著者名 麻生享志 | 4. 巻 27 |
| 2. 論文標題 ピューリッツァ賞への道 ヴィエト・タン・ウエンの『シンパライザー』における「ヴェトナム」表象とアメリカ文学史 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 AALA Journal | 6. 最初と最後の頁 3-10 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 牧野理英 | 4. 巻 0 |
| 2. 論文標題 ボルヘスとオースチン・カレン・テイ・ヤマシタの『三世と多感』における迫害言説への抵抗 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 アジア系トランスボーダー文学 | 6. 最初と最後の頁 89-99 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 Makino, Rie | 4. 巻 0 |
| 2. 論文標題 Brazil-Maru and Ethnic Identities in the Japanese Classroom | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 Approaches to Teaching the Works of Karen Tei Yamashita, MLA | 6. 最初と最後の頁 128-132 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 古木圭子 | 4. 巻 26 |
| 2. 論文標題 チオリ・ミヤガワの描く幽玄の世界 The Lingering Lifeを中心に | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 AALA Journal | 6. 最初と最後の頁 13-24 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 古木圭子 | 4. 巻 0 |
| 2. 論文標題 ヴェリナ・ハス・ヒューストンの戯曲にみる多文化多人種の象徴としての「茶」の役割 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 AALA Journal | 6. 最初と最後の頁 197-210 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 Uzawa, Yoshiko | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 Yone Noguchi 's Style of Literary Adaptation in Gentromansu (1929) | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 Journal of Keio American Studies | 6. 最初と最後の頁 140-153 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 宇沢美子 | 4. 巻 0 |
| 2. 論文標題 野口米次郎の翻案探偵小説探訪 『幻島ロマンス』(一九二九年)の東京府地図 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 アジア系トランスボーダー文学 | 6. 最初と最後の頁 59-71 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 松永京子 | 4. 巻 13 |
| 2. 論文標題 海をわたるウランの物語ー『寡婦の村』とカナダ先住民文学 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 エコクリティシズム・レビュー | 6. 最初と最後の頁 43-54 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 松永京子 | 4. 巻 26 |
| 2. 論文標題 日系文学と原爆 ナオミ・ヒラハラ の ミステリ 小説にみる放射線汚染と植民地主義の言説 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 AALA Journal | 6. 最初と最後の頁 39-47 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 松永京子 | 4. 巻 0 |
| 2. 論文標題 日系文学と原爆 ナオミ・ヒラハラの<マス・アライ>シリーズにみる放射脳汚染とポスト植民地主義の言説 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 アジア系トランスボーダー文学 | 6. 最初と最後の頁 165-178 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 Kyoko, Matsunaga | 4. 巻 0 |
| 2. 論文標題 Trinitite, Turquoise, and Rattlesnakes: The Desert Southwest in the Works of Leslie Silko and Kyoko Hayashi | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 Reading Aridity in Western American Literature | 6. 最初と最後の頁 195-221 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 中地幸 | 4. 巻 26 |
| 2. 論文標題 多和田葉子とマキシーン・ホン・キングストンの交点 挿話、母娘関係、失語症、文学 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 AALA Journal | 6. 最初と最後の頁 25-38 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 中地幸 | 4. 巻 0 |
| 2. 論文標題 アジア系グラフィック・ノベルの現在 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 アジア系トランスボーダー文学 | 6. 最初と最後の頁 123-138 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 渡邊真理香 | 4. 巻 0 |
| 2. 論文標題 二世紀のアジア系セクシュアル・マイノリティ文学 交差する人々の物語 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 アジア系トランスボーダー文学 | 6. 最初と最後の頁 139-151 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|----------------------|
| 1. 著者名 渡邊真理香 | 4. 巻 10 |
| 2. 論文標題 可傷的で攪乱的 ニーナ・ルヴォワルの『ウィングシューターズ』にみる「枠組み」批判 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 中・四国アメリカ文学 | 6. 最初と最後の頁 95-110 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|--------------------|
| 1. 著者名 巽 孝之 | 4. 巻 11 |
| 2. 論文標題 行く手にはピムの幻影: ポー、大岡昇平、J・G・バラード | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 ポー研究 | 6. 最初と最後の頁 3-22 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 巽 孝之 | 4. 巻 1147 |
| 2. 論文標題 パクス・モンゴリカの人新世 ディック、ウォン、ロビンソンに見る歴史改変の想像力 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 思想 | 6. 最初と最後の頁 165-176 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 Takayuki Tatsumi (巽孝之) | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 Thinking After the Hemispheric: The Planetary Expanse of Transnational American Writing | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 The Routledge Companion to Transnational American Studies | 6. 最初と最後の頁 357-369 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 該当する |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 Takayuki Tatsumi (巽孝之) | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 Transpacific Cyberpunk: Transgeneric Interactions between Prose, Cinema, and Manga | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 Arts: Cyberpunk in a Transnational Context | 6. 最初と最後の頁 100-110 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 該当する |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 Takayuki Tatsumi (巽孝之) | 4. 巻 20 |
| 2. 論文標題 In Pym 's Footsteps: Poe, Ooka, and Ballard | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 The Edgar Allan Poe Review | 6. 最初と最後の頁 110-125 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 該当する |

| | |
|---|----------------------|
| 1. 著者名 Takayuki Tatsumi (巽孝之) | 4. 巻 40 |
| 2. 論文標題 Dr. Franklin 's Children: Kant, Shelley and Priest | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 Colloquia | 6. 最初と最後の頁 90-107 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 Takayuki Tatsumi (巽孝之) | 4. 巻 25 |
| 2. 論文標題 The Advent of Asian Speculative Fiction In Response to Wai Chee Dimock's Rereading of The Three-Body Problem | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 AALA Journal | 6. 最初と最後の頁 16-26 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 山本 秀行 | 4. 巻 12 |
| 2. 論文標題 文学戦略としてのスラップスティック カート・ヴォネガット『スラップステック』とフランク・チン『ドナルド・ダック』における語りと笑い | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 英文学研究支部統合号 | 6. 最初と最後の頁 221-229 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 Hideyuki Yamamoto (山本秀行) | 4. 巻 33 |
| 2. 論文標題 Transbordering Strategy in David Henry Hwang's Yellow Face | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 神戸英米論叢 | 6. 最初と最後の頁 45-56 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 松永京子 | 4. 巻 9 |
| 2. 論文標題 「ゴジラ」から「オクトジラ」へ: 循環するウランの物語の行方 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 中四国アメリカ研究 | 6. 最初と最後の頁 23-36 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 Kyoko Matsunaga (松永京子) | 4. 巻 25 |
| 2. 論文標題 Reading the Translations of The Three-Body Problems toward the Post-Anthropocene | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 AALA Journal | 6. 最初と最後の頁 27-32 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 Yoshiko Uzawa (宇沢美子) | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 A mixed legacy: Chinoiserie and Japonisme in Onoto Watanna's A Japanese Nightingale | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 The Routledge Companion to Transnational American Studies | 6. 最初と最後の頁 173-182 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 該当する |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 Yoshiko Uzawa (宇沢美子) | 4. 巻 25 |
| 2. 論文標題 “ In the Mastery of the Fourth Dimension ” : Yone Noguchi ' s Style of Literary Adaptation in Gengoromatsu (1929) | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 AALA Journal | 6. 最初と最後の頁 39-48 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 Anton Alina | 4. 巻 25 |
| 2. 論文標題 Comment on the papers by Lyle De Souza, Chihming Wang and Yoshiko Uzawa | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 AALA Journal | 6. 最初と最後の頁 93-97 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計22件（うち招待講演 19件 / うち国際学会 6件）

| |
|--|
| 1. 発表者名 Tatsumi, Takayuki |
| 2. 発表標題 Godzilla: A Pioneer of Global Pop Culture |
| 3. 学会等名 国際交流基金（招待講演）（国際学会） |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|------------------------------------|
| 1. 発表者名 巽孝之 |
| 2. 発表標題 作家生命論の起原 アメリカ文学思想史の視点から |
| 3. 学会等名 本アメリカ文学会東京支部 4月例会（招待講演） |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Makino, Rie |
| 2. 発表標題 PostMemory and Social Amnesia: the Resistance against Subaltern Discourses in Karen Tei Yamashita 's Works |
| 3. 学会等名 ASA(Association of American Studies)（国際学会） |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 牧野理英 |
| 2. 発表標題 「分別」と「多感」の狭間で ヤマシタの『三世と多感』における 日系ディアスポラの諸相 |
| 3. 学会等名 日本英文学会 第93回 全国大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 牧野理英 |
| 2. 発表標題 災害とローカル・ナラティブ ジュリエット・コーノ『ツナミの年』における海の表象 |
| 3. 学会等名 第33回エコクリティシズム研究学会（招待講演） |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 牧野理英 |
| 2. 発表標題 島と日系アメリカ：I Hotel 第六章を読む |
| 3. 学会等名 アジア系アメリカ文学研究学会 第29回フォーラム（招待講演） |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 宇沢美子 |
| 2. 発表標題 (舞台)装飾とジェンダーから考えるフィーメール・ゴシック—Spofford, Wynne, Gilman— |
| 3. 学会等名 日本ポー学会（年次大会シンポジウム）（招待講演） |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 渡邊真理香 |
| 2. 発表標題 可傷的で攪乱的 ニーナ・ルヴォワルの『ウィングシューターズ』にみる境界侵犯的戦略 |
| 3. 学会等名 中・四国アメリカ学会第48回年次大会（招待講演） |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|-----------------------------------|
| 1. 発表者名 渡邊真理香 |
| 2. 発表標題 Nina Revoyr作品における「水」表象 |
| 3. 学会等名 中・四国アメリカ文学会第49回大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 渡邊真理香 |
| 2. 発表標題 自然と日系性 国立公園をめぐるLost Canyon考 |
| 3. 学会等名 日本ソロー学会2021年度全国大会 シンポジウム（招待講演） |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 山本秀行 |
| 2. 発表標題 中国系アメリカ人作家の疑似自叙伝における信頼できない語り手 Frank Chin, The Confessions of a Number One Son: The Great Chinese American Novelをめぐる |
| 3. 学会等名 日本英文学会関東支部 第17回大会シンポジウム（招待講演） |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 山本秀行 |
| 2. 発表標題 21世紀初頭の中国系アメリカ演劇 David Henry HwangのYellow Face とChinglish を中心に |
| 3. 学会等名 中国文芸研究会（招待講演） |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 山本秀行 |
| 2. 発表標題 Adventures of Huckleberry Finnとアメリカ大衆演劇 ミンストレル・ショー、パーレスク、ミュージカル |
| 3. 学会等名 マーク・トゥエイン協会第23回大会シンポジウム（招待講演） |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Takayuki Tatsumi（巽孝之） |
| 2. 発表標題 The Advent of Asian Speculative Fiction In Response to Wai Chee Dimock's Reading of The Three-Body Problem |
| 3. 学会等名 AALA 30th Anniversary International Forum（招待講演）（国際学会） |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Takayuki Tatsumi（巽孝之） |
| 2. 発表標題 作家生命論演劇篇 トウェイン『彼は死んだのか?』を中心に |
| 3. 学会等名 マーク・トゥエイン協会第23回大会（招待講演） |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Yoshiko Uzawa（宇沢美子） |
| 2. 発表標題 “ In the Mastery of the Fourth Dimension ” : Reassessing Yone Noguchi's Style of Literary Adaptation |
| 3. 学会等名 AALA 30th Anniversary International Forum（招待講演）（国際学会） |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 宇沢美子 |
| 2. 発表標題 蕪を召しませーデッドパンあるいはセラーズ大佐連作における涙と笑いのメロドラマ的ツボ |
| 3. 学会等名 マーク・トゥエイン協会第23回大会（招待講演） |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 麻生亨志 |
| 2. 発表標題 Duplicity と Sympathy Viet Thanh Nguyen の The Sympathizer (2015) が占める文学的立ち位置について |
| 3. 学会等名 日本英文学会関東支部 第17回大会シンポジウム（招待講演） |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 樋口大祐 |
| 2. 発表標題 海港都市神戸と移民文学の系譜 陳舜臣の近代東アジア史小説群を中心に |
| 3. 学会等名 アジア系アメリカ文学研究会第141回例会（招待講演） |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Rie Makino (牧野理英) |
| 2. 発表標題 Juliet Kono and Her Local Hawaii: Glocalism in Tsunami Years |
| 3. 学会等名 The 4th HOKU Symposium for Advanced Interdisciplinary Research Collaboration between Kobe University and the University of Hawai'i (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Rie Makino (牧野理英) |
| 2. 発表標題 Routes to Internment: Disrupting Subaltern Representations of Japanese Americans in Karen Tei Yamashita's Works. |
| 3. 学会等名 日本アメリカ学会第53回年次大会 (招待講演) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Anton Alina |
| 2. 発表標題 At the End of the Rainbow: Nikkei Endeavors in Hawai ' i' |
| 3. 学会等名 The 4th HOKU Symposium for Advanced Interdisciplinary Research Collaboration between Kobe University and the University of Hawai ' i (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

〔図書〕 計9件

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 山本 秀行、麻生 享志、古木 圭子、牧野 理英 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 小鳥遊書房 | 5. 総ページ数 272 |
| 3. 書名 アジア系トランスボーダー文学 アジア系アメリカ文学研究の新地平 | |

| | |
|------------------|-----------------|
| 1. 著者名 牧野理英 | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 三修社 | 5. 総ページ数 312 |
| 3. 書名 抵抗と日系文学 | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 巽 孝之、下河辺 美知子、越智 博美、後藤 和彦、原田 範行（編） | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 小鳥遊書房 | 5. 総ページ数 554 |
| 3. 書名 脱領域・脱構築・脱半球 | |

| | |
|-------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 巽 孝之、宇沢 美子（編） | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 ミネルヴァ書房 | 5. 総ページ数 244 |
| 3. 書名 よくわかるアメリカ文化史 | |

| | |
|----------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 巽孝之（共著） | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 藤田印刷エクセレントブックス | 5. 総ページ数 210 |
| 3. 書名 現代北海道文学論：来るべき「惑星思考」に向けて | |

| | |
|------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 巽孝之（共著） | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 小鳥遊書房 | 5. 総ページ数 341 |
| 3. 書名 アメリカン・マインドの音声 | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 Takayuki Tatsumi | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 Routledge | 5. 総ページ数 400 |
| 3. 書名 The Routledge Companion to Transnational American Studies | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 松永京子 | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 英宝社 | 5. 総ページ数 318 |
| 3. 書名 北米先住民作家と 核文学 - アポカリプスからサバイバンスへ | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 松永京子 (共著) | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 トランスパシフィック・エコクリティシズム - 物語る海、響き合う言葉 | 5. 総ページ数 359 |
| 3. 書名 彩流社 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|---|--|----|
| 研究分担者 | 宇沢 美子 (富島美子) (Uzawa Yoshiko) (00164533) | 慶應義塾大学・文学部(日吉)・教授 (32612) | |
| 研究分担者 | 牧野 理英 (Makino Rie) (10459852) | 日本大学・文理学部・教授 (32665) | |

6. 研究組織（つづき）

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|---|--------------------------------------|----|
| 研究分担者 | 巽 孝之 (Tatsumi Takayuki) (30155098) | 慶應義塾大学・文学部（三田）・名誉教授 (32612) | |
| 研究分担者 | 中地 幸 (Nakachi Sachi) (50247087) | 都留文科大学・文学部・教授 (23501) | |
| 研究分担者 | 松永 京子 (Matsunaga Kyoko) (50612529) | 広島大学・人間社会科学研究科（文）・准教授 (15401) | |
| 研究分担者 | 渡辺 真理香 (Watanabe Marika) (60587616) | 北九州市立大学・外国語学部・准教授 (27101) | |
| 研究分担者 | 古木 圭子 (Furuki Keiko) (80259738) | 奈良大学・文学部・教授 (34603) | |
| 研究分担者 | 麻生 享志 (Aso Takashi) (80286434) | 早稲田大学・国際学院・教授 (32689) | |
| 研究分担者 | 樋口 大祐 (Higuchi Daisuke) (90324889) | 神戸大学・人文学研究科・教授 (14501) | |
| 研究分担者 | ANTON ALINA (Anton Allina) (50781746) | 神戸大学・人文学研究科・特任講師 (14501) | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

| | |
|---|--------------------|
| 国際研究集会 AALA 30th Anniversary International Forum | 開催年 2019年～2019年 |
|---|--------------------|

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|